第Ⅲ章　ゾーン別の色彩景観

Ⅲ－１．色彩の選定にあたって

（1）景観ゾーンの考え方

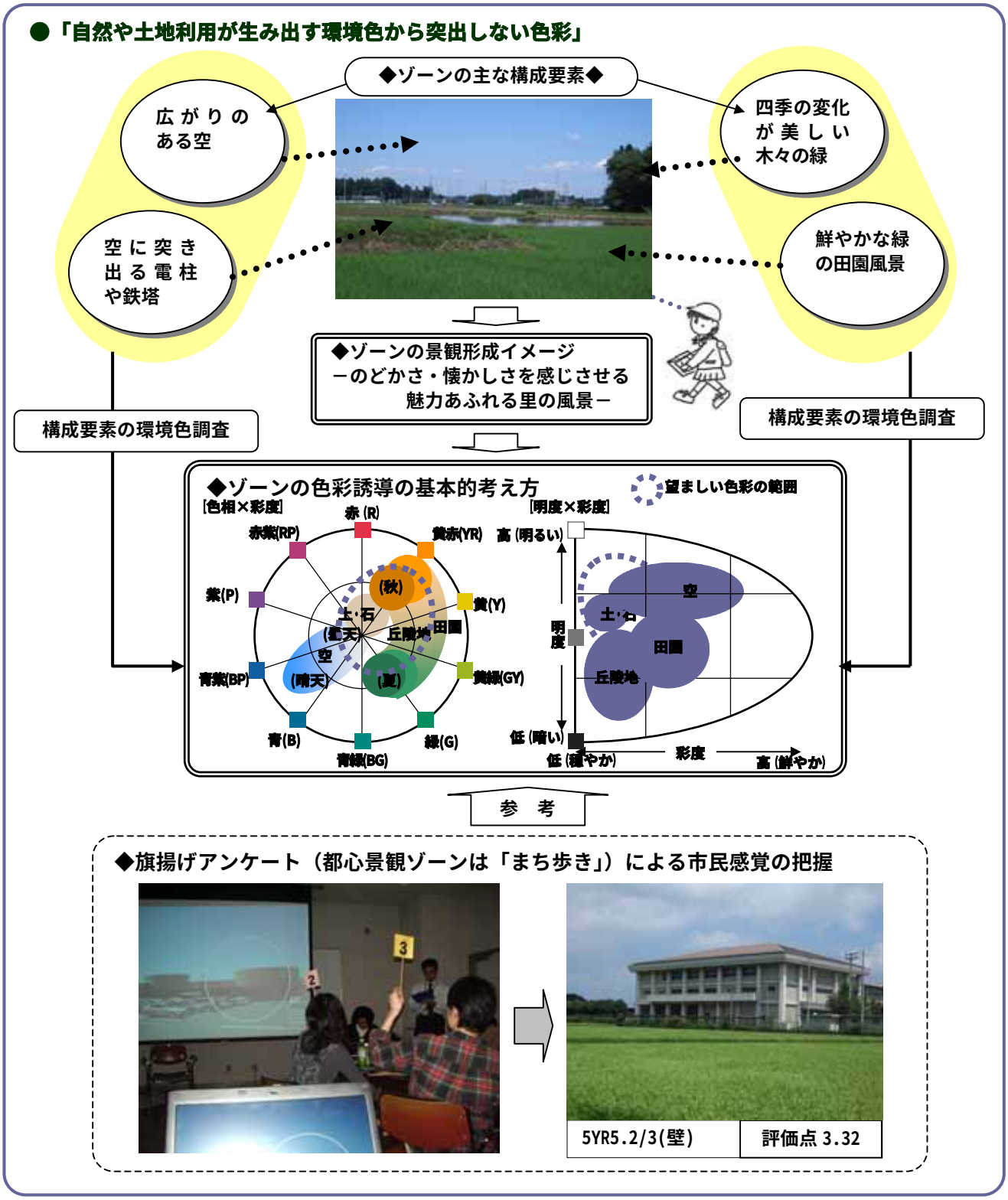
宇都宮市景観計画では、総合計画や都市計画マスタープランにおける地域別計画を踏まえ、全市を「北西部地域」「中央地域」「東部地域」「南部地域」「上河内地域」「河内地域」の６地域に区分するとともに、景観特性に関係の深い「自然」や「土地利用」の状況から、以下の５つの景観ゾーンに分け、景観形成の方針を定めています。

ここでは、先の基本的作法に基づいて、それぞれの景観に調和する色彩の誘導基準を定めます。

景観ゾーン	景観特性
① **山地丘陵景観ゾーン**	北部・北西部の山々と、山並みが市街地に伸びた宇都宮丘陵からなるゾーンで、本市の北面の山並みや市街地の緑の景観を形成するゾーン
② **田園集落景観ゾーン**	鬼怒川、田川、姿川の周囲に広がる田園、鬼怒川東側や北西部山並みの裾野に広がる田畑・果樹園、北西部地域の山あいに広がる田園からなるゾーンで、田園風景の中に集落や平地林が点在するゾーン
③ **住宅地景観ゾーン**	主に市街化区域内のゾーンで、住宅地又は住宅と店舗等が混在するゾーン
④ **工業流通景観ゾーン**	大規模な工業団地やまとまった工場群、宇都宮市中央卸売市場が立地する地区及びテクノポリスセンター地区・東谷中島地区からなるゾーン
⑤ **都心景観ゾーン**	都心環状線の内側のゾーンで、古くから宇都宮市の中心として栄え、ＪＲ宇都宮駅等の市の玄関口を有し、また、商業・業務の中枢をなすゾーン

（２）色彩特性と市民感覚の把握

色彩誘導の方向性は、各景観ゾーンに属する地区の「環境色彩調査」と「サンプル色彩調査」を基に設定します。「環境色彩調査」では、自然や土地利用など景観ゾーンの特徴的な構成要素の色彩（環境色）を把握し、ゾーンの景観形成イメージと重ね合わせて、これらの環境色から突出しない色彩の範囲を見つけ出していきます。また、突出感の有無を「サンプル色彩」を使った市民アンケートによって把握し、その結果も参考にします。



（3）構成及び使い方

本章は、以下のような構成としており、設計者や事業者の方は建築物等の計画場所のゾーン区分を確認した上で、該当ゾーンの色彩誘導基準に沿った色彩計画を行ってください。

① ゾーンの環境色彩

各景観ゾーンの典型となる複数の調査ポイントについて調査を行い、ゾーンの景観的な特徴やゾーンを構成する主な環境構成要素を抽出するとともに、その色彩的な特徴を整理します。

緑に包まれて点在する住宅（古賀志山周辺）

空の青と山の緑のコントラストが鮮やかな丘陵景観（平成記念子どもの森周辺）

【調査ポイント】

・羽黒山周辺
・古賀志山周辺
・平成記念子どもの森公園周辺
・うつのみや丘陵

など

同景観ゾーンの典型として抽出し、調査を行ったポイントです。

赤茶色に色づいた山並みの緑と田園（大谷街道からの眺望）

谷地の幹線道路沿いに掲出される案内看板（大谷街道）

【ゾーンの主な環境構成要素】

・広がりのある空
・四季の変化が美しい木々の緑
・空に突き出る電柱や鉄塔
・鮮やかな緑の田園風景
・派手な色彩の広告看板

など

ゾーンの景観(環境)を構成する主な要素を明らかにします。

② ゾーンの色彩景観のテーマ

景観計画に示された各景観ゾーンの景観形成の方向性及びそれから導き出される色彩景観のテーマを設定します。

【景観形成の方向性】

季節の移り変わりや自然の奥深さなど、豊かな自然を身近に感じることのできる景観づくりが求められます。

【色彩景観のテーマ】

『豊かな自然への眺望に合う 温かみのある色彩景観』

季節や時間帯によって様々な表情を見せる自然景観への眺望にあわせ、暖色系を中心とした温かみの感じられる色彩景観を誘導します。

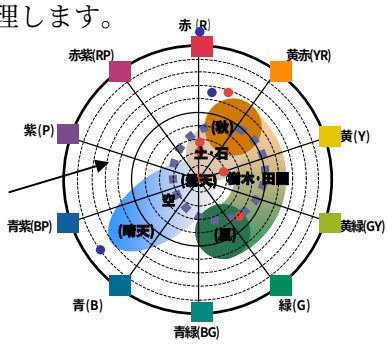
景観形成の方向性から導き出される色彩景観のテーマを設定します。

③ ゾーンにおける色彩誘導の考え方

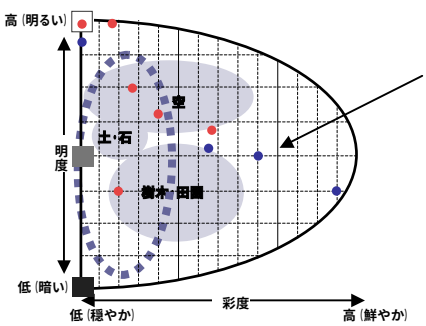
各ゾーンの主な構成要素の色彩特性を［色相×彩度］［明度×彩度］の相関図に概括するとともに、市民ワークショップで行った「旗揚げアンケート」（※「都心景観ゾーン」はまち歩きによる「色探し」）において、評価が高かった色及び評価が低かった色をあわせて示します。

それらを基に、当ゾーンにおける色彩誘導の方向性を模式的に示すとともに、色彩誘導の基本的な考え方を整理します。

①の主な環境構成要素の色彩的な特徴を相関図に示すとともに、その特徴を踏まえた、色彩誘導の方向性（イメージ）を図示します。



[環境構成要素の色相と色彩誘導の方向性]



[環境構成要素の明度・彩度と色彩誘導の方向性]

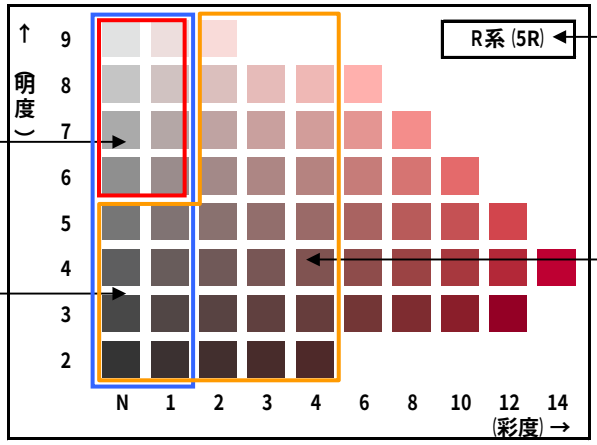
ワークショップで行った「旗揚げアンケート」で評価の高かった色、低かった色を図示します。

④　建築物等における望ましい色彩の範囲

①～③の基本的考え方をもとに、建築物等の外壁の基調色と強調色、屋根の基調色について、地域の環境色彩に調和する、望ましい色彩の範囲を標準色票に示すとともに色彩サンプルを示します。

建築物等における外壁の基調色の推奨範囲を示します。
右図の例では、
・彩度０以上１以下
・明度６以上９以下
となります。

建築物等の屋根色の推奨範囲を示します。
右図の例では、
・彩度０以上１以下
・明度２以上９以下
となります。



色票は中央色（5R）のみを示していますが、R 系の色（0.1R～10R）は全て同様の範囲を推奨色とします。

建築物等における外壁の強調色の推奨範囲を示します。（※山地丘陵景観ゾーンと田園集落景観ゾーンには設定しません。）
右図の例では、
・明度２以上６未満の場合は彩度１以下
・明度６以上９以下の場合は彩度４以下
となります。

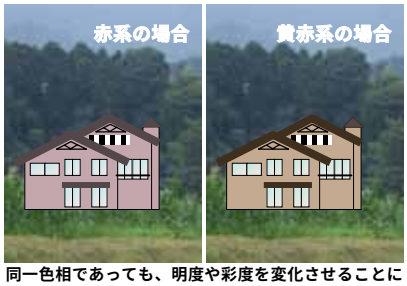
⑤　配色のヒント

より具体的な配色のヒントとして、良好な事例を交えながら紹介するとともに、ゾーンの色彩誘導イメージをイラストによって示しますので、色彩選定の参考としてください。

○同じ色相で明度、彩度差を変える

R(赤)系や YR(黄赤)系など、同色相の低彩度・高明度の外壁色と低彩度・低明度の屋根色を組み合わせることにより、建築物自体の色彩バランスがとれ、背景の緑にも調和します。

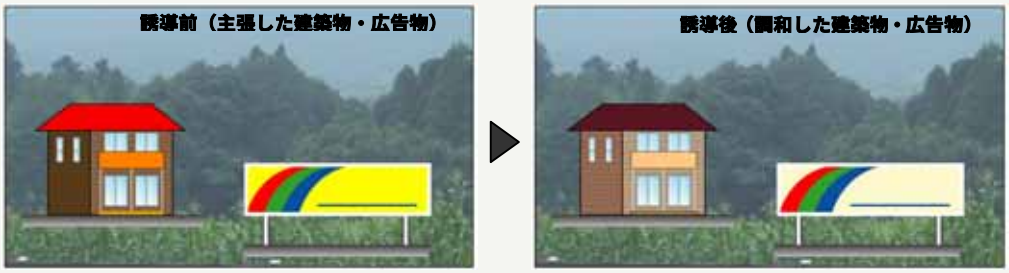
5R7/2　5R3/1　10YR7/3　10YR2/2



同一色相であっても、明度や彩度を変化させることによって、メリハリのある配色が可能である。

【ゾーンの色彩誘導イメージ】

建築物は、茶系の低彩度色を組み合わせた配色とするとともに、広告物も高彩度色の面積を抑えることで、背景となる自然環境との調和を図ります。



Ⅲ－２．山地丘陵景観ゾーン

（１）ゾーンの環境色彩

緑に包まれて点在する住宅（古賀志山周辺）

空の青と山の緑のコントラストが鮮やかな丘陵景観（平成記念子どもの森周辺）

赤茶色に色づいた山並みの緑と田園（大谷街道からの眺望）

谷地の幹線道路沿いに掲出される案内看板（大谷街道）

【調査ポイント】

・羽黒山周辺
・古賀志山周辺
・平成記念子どもの森公園周辺
・うつのみや丘陵

など

【ゾーンの主な環境構成要素】

・広がりのある空
・四季の変化が美しい木々の緑
・空に突き出る電柱や鉄塔
・鮮やかな緑の田園風景
・派手な色彩の広告看板

など

【ゾーンの環境色彩の特徴】

○見る場所や陽のあたり方によって明度や彩度の異なる山並みの緑

山並みの緑の色相は G(緑)や GY(黄緑)系ですが、視点場から対象物までの距離や陽のあたり方によって、見かけの明度や彩度などが異なります。

○四季の変化によって大きく表情を変える田園や樹林

田園や樹林は、夏は G(緑)～GY(黄緑)系の鮮やかな緑が中心ですが、秋には紅葉などにより YR(黄赤)～R(赤)の暖色系の色相が強まるなど、四季によっても大きく表情が変わります。

○緑に映える暖色系と違和感を与える寒色系の色彩

R(赤)系や YR(黄赤)系といった暖色系の色彩は、紅葉や土壌の色など自然色としても多く存在するため、建築物等に用いてもあまり違和感はありませんが、B(青)や BP(青紫)といった寒色系の色彩は山地や田園地等ではあまり存在しないため、彩度が高いと違和感を与えます。

○谷地の幹線沿道に並ぶ高彩度色の広告看板やのぼり

谷地の幹線道路沿道には、高彩度色を使った大型の広告看板が立てられており、背後にある自然の緑との不調和感を与えています。

○背後の緑との明度差が大きい白色の防護柵

緑を横切る白色の防護柵は、背後の緑との明度差が大きく、目立った存在となっています。

（２）ゾーンの色彩景観のテーマ

【景観形成の方向性】

季節の移り変わりや自然の奥深さなど、豊かな自然を身近に感じることのできる景観づくりが求められます。

【色彩景観のテーマ】

『豊かな自然への眺望に合う温かみのある色彩景観』

季節や時間帯によって様々な表情を見せる自然景観への眺望にあわせ、暖色系を中心とした温かみの感じられる色彩景観を誘導します。

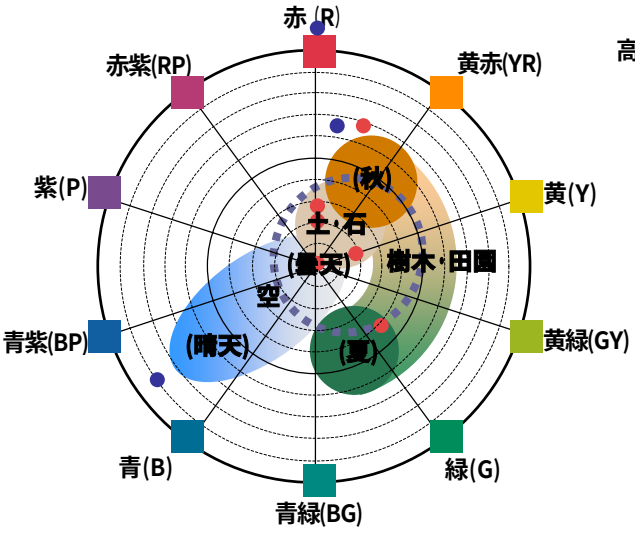
（３）ゾーンにおける色彩誘導の考え方

ゾーンの主な環境構成要素である広がりのある空、四季によって変化が見られる山並みの緑や田園の色彩など、自然景観との調和に配慮することが大切です。

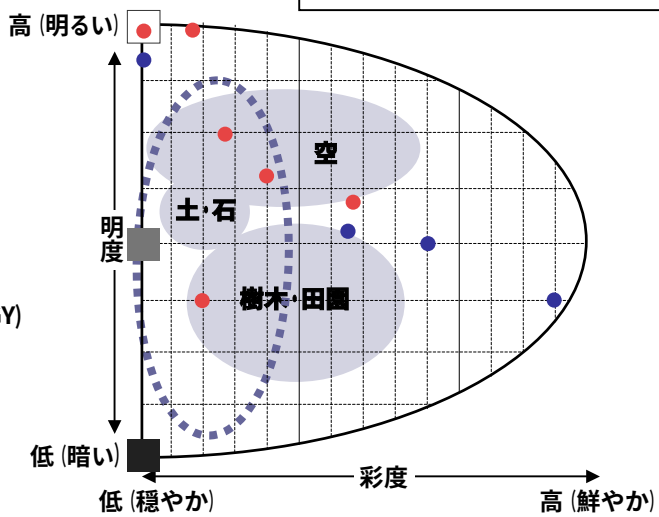
色彩誘導の方向性

（市民ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ旗揚げｱﾝｹｰﾄで）

- 評価の高かった色
- 評価の低かった色



[環境構成要素の色相と色彩誘導の方向性]



[環境構成要素の明度・彩度と色彩誘導の方向性]

○四季による色彩の変化にも違和感のないよう低彩度・低明度の控えめな色彩を基調とする

当ゾーンは斜面緑地や丘陵地の緑を中心に、自然が身近に感じられるエリアであり、土や石、木々の緑、田園の緑などの自然色にとけ込むような色彩が望まれます。また、これらの自然の色は季節によって変化するものであり、四季を通して違和感のないよう、低彩度・低明度の控えめな色彩を基調とすることが必要です。

○自然の緑を生き生きと見せる暖色系の色彩を中心とする

B(青)や BP(青紫)といった寒色系は背景となる樹木や田園などの反対色であり、違和感を覚えることから、これらの色彩の使用は極力避け、R(赤)、YR(黄赤)や Y(黄)といった暖色系の穏やかな色彩（彩度１～３程度）を使用し、豊かな自然の緑を生き生きと見せるようにします。

○工作物等は機能面・安全面で求められる色彩を維持しながら景観的な配慮を行う

広告物はわかりやすい情報提供を行う必要があり、また鉄塔や横断防護柵は存在を明らかにする必要があるなど、機能面や安全面で求められる色彩に配慮するとともに、自然環境の中で違和感のないようにすることが必要です。

建築物等における望ましい色彩の範囲

基調色（屋根）

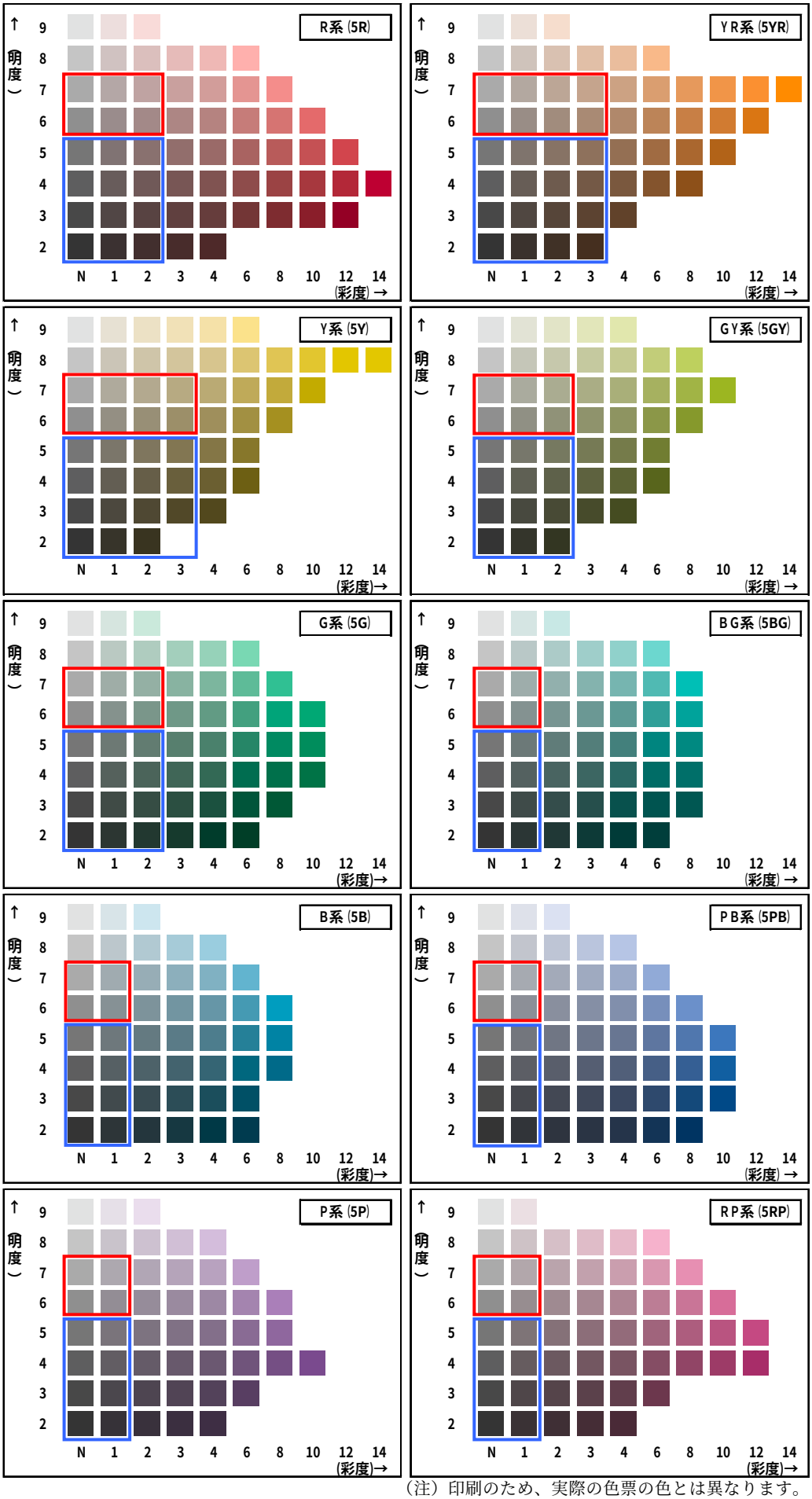
［色彩例］

5R 3/2	5YR 5/3
5Y 5/3	5G 4/2
5B 4/1	5P 4/1

基調色(外壁)

［色彩例］

5R 6/1	10R 7/2
5YR 6/1	10YR 7/3
5Y 6/1	10Y 7/3
5G 6/1	5BG 7/1
5B 6/1	5PB 7/1
5P 6/1	5RP 7/1



※色票は各色相の中央色（5R）のみを示していますが、例えばＲ系の色（0.1R～10R）は全て同様の範囲を推奨色とします。

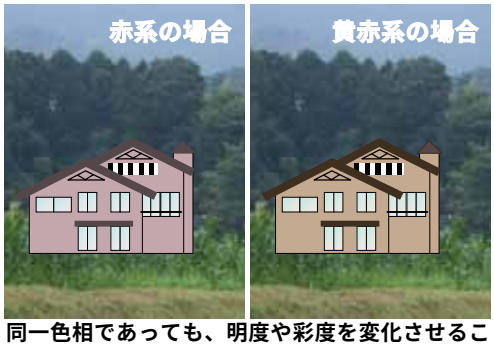
（注）印刷のため、実際の色票の色とは異なります。

（4）配色のヒント

○同じ色相で明度、彩度差を変える

R(赤)系や YR(黄赤)系など、同色相の低彩度・高明度の外壁色と低彩度･低明度の屋根色を組み合わせることにより、建築物自体の色彩バランスがとれ、背景の緑にも調和します。

5R7/2　5R3/1　10YR7/3　10YR2/2



同一色相であっても、明度や彩度を変化させることによって、メリハリのある配色が可能である。

○上からの視線にも配慮する

当ゾーンのような丘陵地に建築物を建てる場合は、横からの視線だけではなく、上からの視線にも配慮する必要があります。

このとき、屋根の色はやや色味のある低彩度色とすることにより、背景となる斜面地の緑や田畑などの自然色との調和が図れます。

丘陵地においては、高いところから見られることも多い。

○高彩度色の使用は控える

広告物や自動販売機についても、高彩度色の使用は最小限に抑え、背景となる緑との調和に配慮します。

自動販売機の彩度をおとすことにより、突出感が軽減される。

○機能と景観の視点から色彩を考える

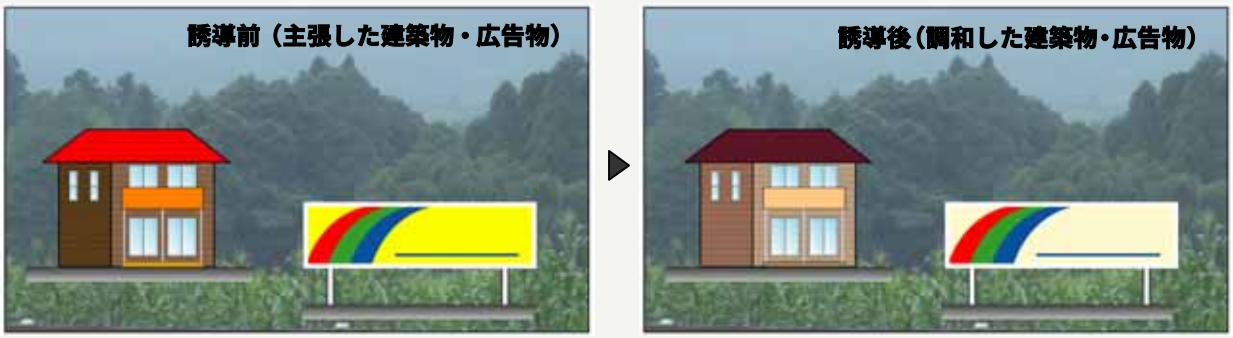
交通安全上、問題のない場所では、防護柵や電柱等といった道路上の工作物もこげ茶（10YR2/1程度）とし、その存在を主張することなく、背景の自然の緑に調和するようにします。

また、夜間の視認性を高めるために反射シートなどを貼る場合、昼間と夜間における機能性と景観の両方の視点で検討することが必要です。

こげ茶色の防護柵とすることで、背景の自然の緑に調和させることができる。

【ゾーンの色彩誘導イメージ】

建築物は、茶系の低彩度色を組み合わせた配色とするとともに、広告物も高彩度色の面積を抑えることで、背景となる自然環境との調和を図ります。



Ⅲ－３．田園集落景観ゾーン

（１）ゾーンの環境色彩

360 度の視野が開けた田園景観（鬼怒川グリーンパーク白沢付近）

広がる田園の先に見える住宅と屋敷林（鬼怒川沿い／上小倉町）

田園の先の斜面地に広がる果樹園（大谷街道からの眺望／古賀志町）

沿道に掲出される果樹園への案内看板（大谷街道／古賀志町）

【調査ポイント】

・鬼怒川沿い
・岡本家住宅周辺
・豊郷周辺
・田川沿い
・古賀志周辺

など

【ゾーンの主な環境構成要素】

・広がりのある空
・視界の開けた田園景観
・点在する屋敷林の緑
・空に突き出る電柱
・背後に広がる山並み
・山裾や沿道に点在する住宅
・派手な色彩の案内看板

など

【ゾーンの環境色彩の特徴】

○視界の多くを占める広がりのある空

周辺には高い建築物もなく、山並みも離れていることから、視界に占める空の割合が大きいのが特徴です。そのため、垂直方向に伸びる電柱等の工作物が特に目立ちます。空の色は天候や季節によって明度が大きく変化します。

○四季の変化によって表情を変える田園風景

夏は G(緑)～GY(黄緑)系の色が中心ですが、秋は YR(黄赤)系の色が強まります。また冬は土の色が露出し、YR(黄赤)系の低彩度色も多く見られます。

○緑に調和しない高彩度色を使った民家の屋根

山裾に見られる民家は勾配屋根の建築物が多く、中・遠景では屋根面の色が特に目につきます。屋根に使われている高彩度色や寒色系の色は周辺環境から突出して見え、違和感を与えます。

○緑の田園の中に建つ中層建築物

広がる緑の田園の中に中層（３～５階程度）のマンションや学校、公共施設が時々見られます。これらの建築物の大きな壁面は自然景観の中でインパクトの強いものとなっています。

○幹線沿道に並ぶ高彩度色の立看板やのぼり

幹線道路沿道には、多くの色を使った立看板やのぼりが立てられており、背後にある自然の緑に対し、雑多なイメージを与えます。

○様々な色で塗られた橋の欄干

当ゾーンは河川沿いに広がるエリアが多くを占めており、橋梁も多く見られます。この橋の欄干の色は R(赤)や GY(黄緑)、N(灰)系など様々であり、統一感がありません。

（２）ゾーンの色彩景観のテーマ

【景観形成の方向性】

河川沿いに広がる田園や山裾に広がる畑地・果樹園、開放的な空といった、広がりのある眺望を大切にした景観づくりが求められます。

【色彩景観のテーマ】

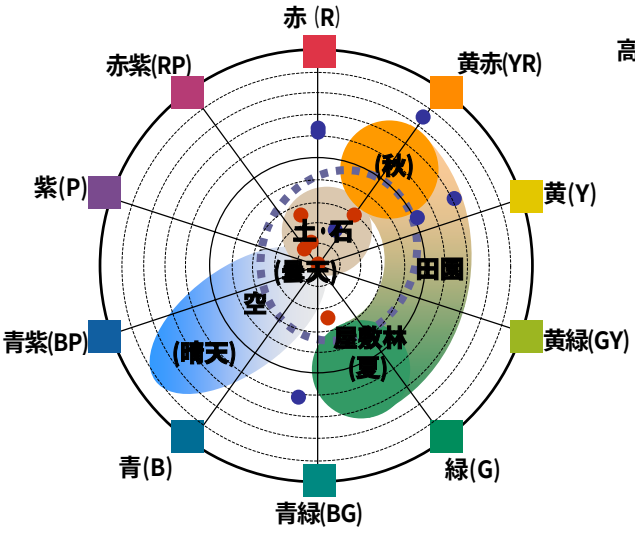
『広がりのある田園に調和した、親しみのある色彩景観』

田園景観への眺望を妨げない範囲で、自然の開放的なイメージに調和した明るく親しみやすい色彩を中心とした色彩景観を誘導します。

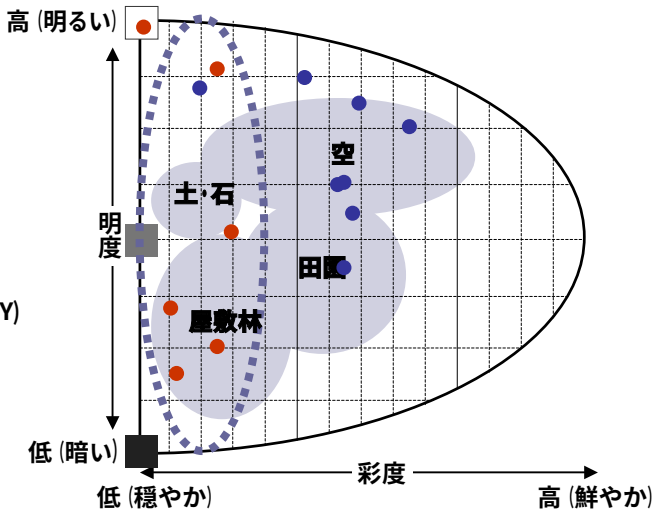
（３）ゾーンにおける色彩誘導の考え方

ゾーンの主な環境構成要素である広がりのある空、屋敷林の緑や四季によって変化する田園の色彩など、明るく開放的な自然景観との調和に配慮することが大切です。

色彩誘導の方向性
（市民ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ旗揚げｱﾝｹｰﾄで）
● 評価の高かった色
● 評価の低かった色



[環境構成要素の色相と色彩誘導の方向性]



[環境構成要素の明度・彩度と色彩誘導の方向性]

○自然の開放的なイメージに調和した明るい色彩とする

当ゾーンは、田園を中心とした視界の開けた開放的な空間となっており、暗く重いイメージとならないよう、高～中明度の明るい色彩に心がけます。

○のどかな里の風景に調和する暖色系の色彩を中心とする

B(青)や BP(青紫)といった寒色系は背景となる樹木や田園などの反対色であり、違和感を覚えることから、これらの色彩の使用は極力避け、R(赤)、YR(黄赤)や Y(黄)といった暖色系の低彩度色（彩度１～３程度）を使用し、のどかな里の風景に調和するようにします。

○工作物等は機能面・安全面で求められる色彩を維持しながら景観的な配慮を行う

広告物はわかりやすい情報提供を行う必要があり、また鉄塔や横断防護柵は存在を明らかにする必要があるなど、機能面や安全面で求められる色彩に配慮するとともに、自然環境の中で違和感のないようにすることが必要です。

建築物等における望ましい色彩の範囲

基調色（屋根）

［色彩例］

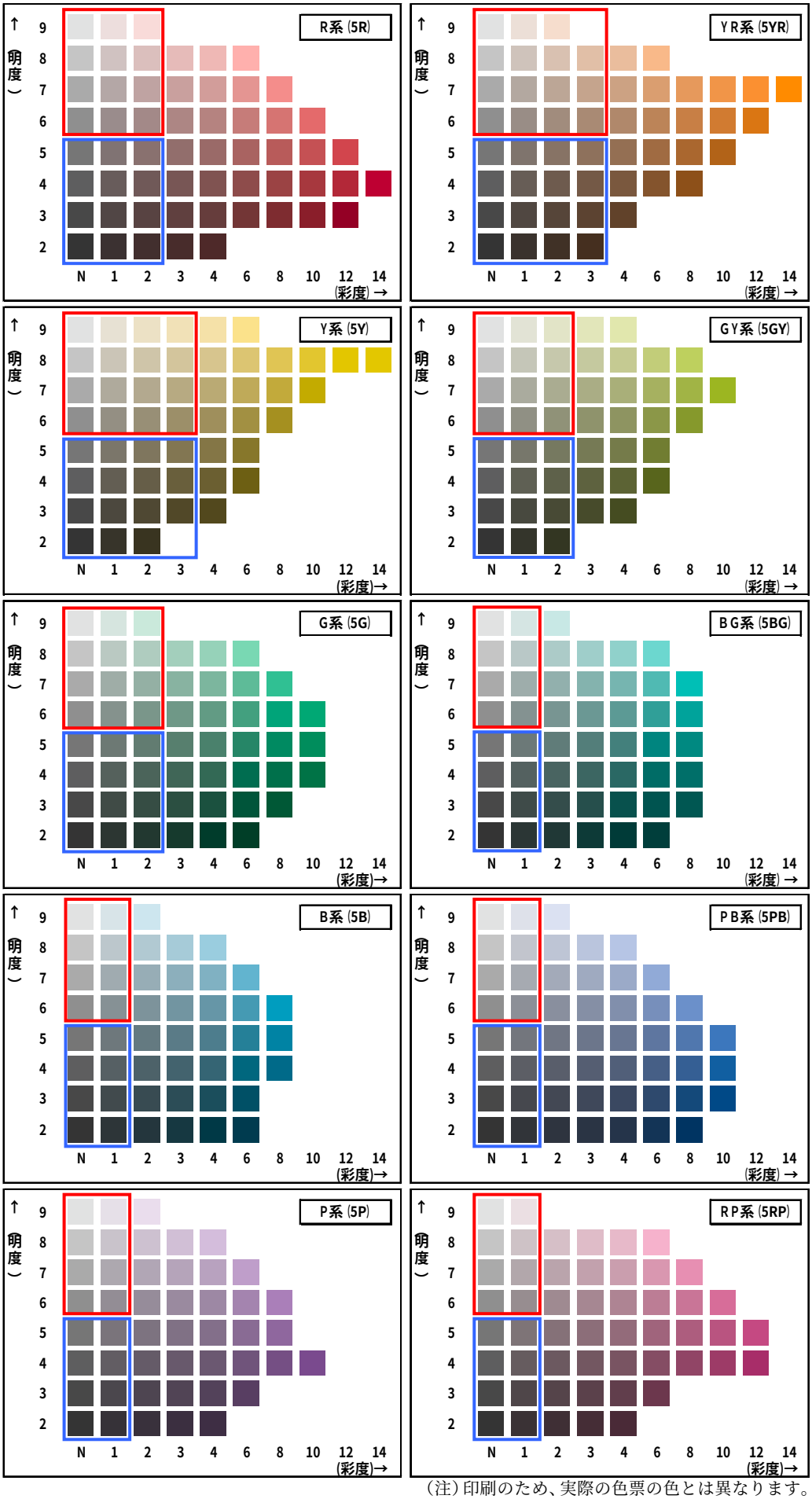
5R 3/2	5YR 5/3
5Y 5/3	5G 4/2
5B 4/1	5P 4/1

基調色(外壁)

［色彩例］

10R 8/1	10R 7/2
10YR 8/1	10YR 7/3
10Y 8/1	10Y 7/3
10G 8/1	5BG 7/1
10B 8/1	5PB 7/1
10P 8/1	5RP 7/1

※色票は各色相の中央色（5R）のみを示していますが、例えばＲ系の色（0.1R～10R）は全て同様の範囲を推奨色とします。



（注）印刷のため、実際の色票の色とは異なります。

（4）配色のヒント

○屋根面の色彩でまとまりをつくる

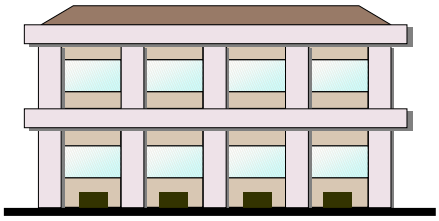
やや高い位置から見下ろす中景の眺望が得られる場所では、壁面色は YR(黄赤)系や Y(黄) 系と様々であっても、屋根面に空の青、周辺の緑と調和した R(赤)系の低彩度・中明度の色彩を用いることでまとまりが生まれます。

屋根がこげ茶色に統一され、住宅地のまとまりが感じられる。

○同系の２色を使って壁面に変化をつける

中高層の建築物では、屋根面だけでなく、壁面の色が気になります。この例では YR(黄赤)系の低彩度・中明度色の屋根色に対し、壁面は Y(黄)系の２色を用いて、親しみある色彩となります。

このとき、柱・梁などの構造体とその他の外壁などの色を使い分けると効果的です。



同系の２色を使って、壁面にメリハリをつける。

○広告物には多くの色を使わない

視認性が高く、かつ背景の緑とも調和する色を基本とし、また表示内容も１～２色程度の色ですっきりさせることが望まれます。

少ない色数で表示面をすっきりさせることで、視認性も高く、周辺環境とも調和しやすい。

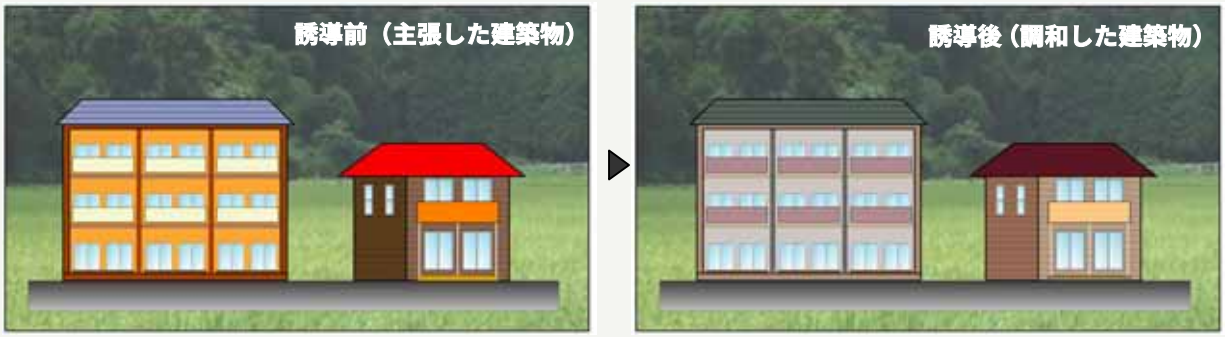
○河川空間と道路空間両方のバランスを考える

橋の欄干を G(緑)系の中彩度・高明度色として背景の緑に調和する工夫がなされていますが、アスファルト舗装面との彩度差が大きいため、もう少し彩度をおとすことで、より調和した色彩となります。

彩度をおとすことで、道路空間において、より調和した色彩となる。

【ゾーンの色彩誘導イメージ】

明るく、親しみのある暖色系（R、YR、Y 系）を中心とした配色とすることにより、広がりのある田園景観の眺望を妨げないようにします。



Ⅲ－４．住宅地景観ゾーン

（１）ゾーンの環境色彩

低層建築物が並ぶニュータウン（奈坪台団地）

４階建ての中層集合住宅（山王市営住宅）

【調査ポイント】

・陽東桜ヶ丘
・山王市営住宅
・奈坪台団地
・松風台団地
・豊郷台
・宝木団地
・六道の古い街並み
・駒生周辺

など

新旧の建築物が混在する旧街道沿いの町並み（六道）

パステル調の建築物が目立つ住宅団地（松風台団地）

【ゾーンの主な環境構成要素】

・低層・中層住宅
・宅地内の緑
・インターロッキング等のカラー舗装
・ストリートファニチャー

など

【ゾーンの環境色彩の特徴】

○地区計画等により色彩の統一が見られるニュータウン

新しいニュータウンなどで、地区計画等により建築物の基調色（外壁・屋根）を YR(黄赤)系等の色彩で統一している街並みは、宅地内の植栽と調和して落ち着きが感じられます。

○多種多様な形態や色彩の建築物が並ぶ古くからの住宅団地

一方で、古くからある住宅団地では、建築物の形態や色彩が多種多様であり、にぎやかさはありますが、住宅地としての落ち着きに欠けているところがあります。

○単調な壁面にアクセントカラーで変化をつけた中層集合住宅

長大になりがちな集合住宅の壁面の中で、単色ではなく、アクセントカラーなどを効果的に使って、視覚的な変化をつけるなどの工夫が見られる建築物も多く見られます。

○インターロッキングなどを使ったカラー舗装

歩道部分ではインターロッキングを使ったカラー舗装を行っている住宅地も多く見られます。歩車道を明確に区分する目的もありますが、やや主張しすぎと感じられるところもあります。

○落ち着いた色彩のストリートファニチャー

歩道整備とあわせてストリートファニチャー（信号機、街灯、車止めなど）のデザインに工夫が見られる住宅地もあります。R(赤)系や G(緑)系の低彩度色や N(灰)系の無彩色、あるいは自然素材を使ったものなどがあります。

（２）ゾーンの色彩景観のテーマ

【景観形成の方向性】

住宅を中心に日常生活の基盤となる場所であり、街並みとしての連続性や一体感を保ちながら、落ち着きと安らぎのある景観づくりが求められます。

【色彩景観のテーマ】

『日常生活の場として飽きのこない、落ち着きのある色彩景観』

住民にとって住宅地は日常生活の場であり、あまり際立って目立つことなく、飽きのこない、落ち着いた色彩景観を誘導します。

（３）ゾーンにおける色彩誘導の考え方

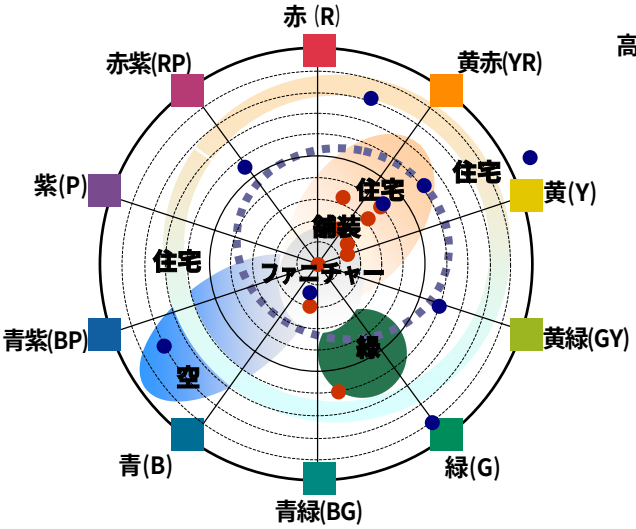
住宅地では視界が狭まり、建築物自体や舗装、ストリートファニチャーなどが図であるとともに、環境を構成する要素にもなり、街並みとしての連続性や一体感が求められます。

色彩誘導の方向性

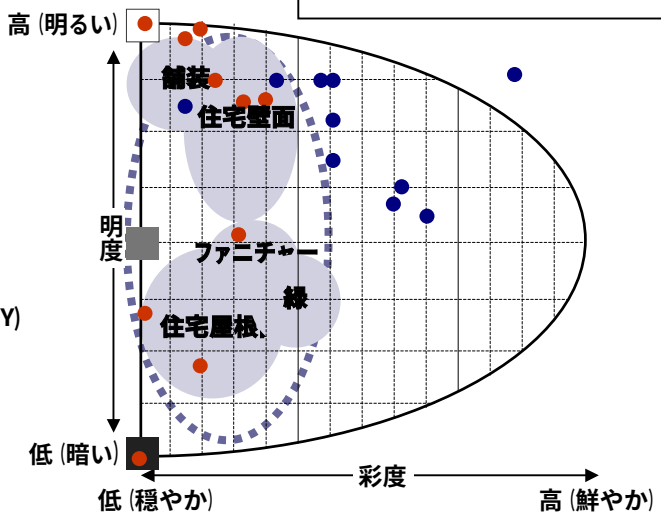
（市民ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ旗揚げｱﾝｹｰﾄで）

● 評価の高かった色

● 評価の低かった色



[環境構成要素の色相と色彩誘導の方向性]



[環境構成要素の明度・彩度と色彩誘導の方向性]

○基調色は飽きのこない、落ち着いた低彩度の色彩を原則とする

建築物の色彩は「図」であると同時に街並みとしての「地」を構成する要素でもあり、周辺建築物の色彩との調和にも留意する必要があります。

住宅地は日常生活の場であり、あまり際立って目立つことなく、飽きのこない、落ち着いた低彩度の色彩が望まれます。原則、基調色としては R(赤)、YR(黄赤)、Y(黄)系が彩度３、その他の色相は彩度２以下に抑えるようにします。

○外壁は高明度色を使用し、明るく軽快な街並みとする

住宅の壁面など人の目に入りやすい部分の色彩は、明度を高く保つことで、明るく快適な街並みとすることが望まれます。そこで、歴史的な街並みを除いて、黒をはじめとした低明度な色は住宅地には使わないようにします。

○強調色を効果的に使って、壁面に変化をつける

外壁色と同色相の強調色を建具など小面積に用いることにより、建築物の表情に変化をつけることも効果的です。

○ストリートファニチャーなど小工作物の色彩をそろえ、街並みを特徴づける

ストリートファニチャーの色彩を暖色系の低彩度色でそろえることで、落ち着きと風格のある街並みとしての調和が生まれます。

建築物等における望ましい色彩の範囲

基調色（屋根）

[色彩例]

5R 4/3	5YR 4/3
5Y 4/3	5G 4/2
5B 4/2	5P 4/2

基調色(外壁)

[色彩例]

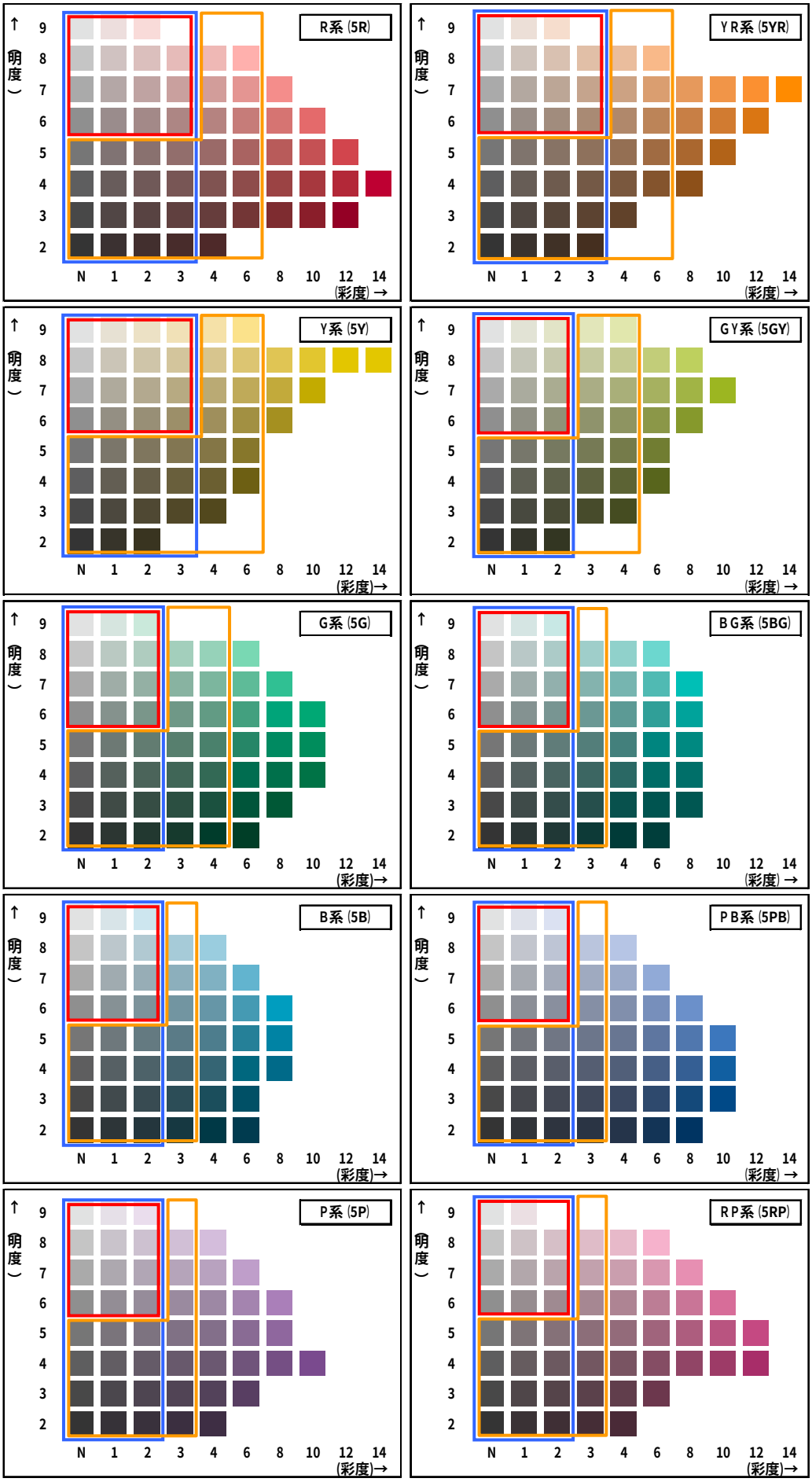
5R 9/1	10R 6/3
5YR 9/1	10YR 6/3
5Y 9/1	10Y 6/3
5G 9/1	10BG 8/2
5B 9/1	10PB 6/2
5P 9/1	10RP 6/2

強調色（外壁）

[色彩例]

5R 6/6	5YR 6/6
5Y 6/4	5G 6/4
5B 6/3	5P 6/3

※色票は各色相の中央色（5R）のみを示していますが、例えばＲ系の色（0.1R～10R）は全て同様の範囲を推奨色とします。



（注）印刷のため、実際の色票の色とは異なります。

（4）配色のヒント

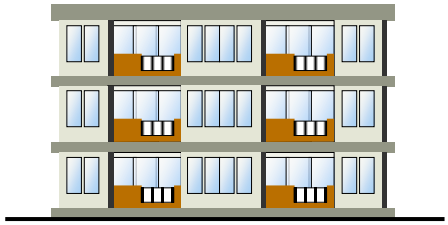
○街並みとしての連続性に配慮する

住宅地では、建築物による街並みが形成されており、新たに建築を行う際は周辺建築物の色彩に協調させ、街並みとしての連続性に配慮することが大切です。

街並みの連続性に配慮した色彩とする。

○アクセント色を使って壁面に変化をつける

単調になりがちな中層集合住宅の外壁においては、基調色に加え、強調色を効果的に使うことによって、圧迫感を軽減し、変化のある色彩とすることができます。



ベランダの腰壁部分にアクセント色を用いて変化をつける。

○表面的な着色ではなく、素材色を活かす

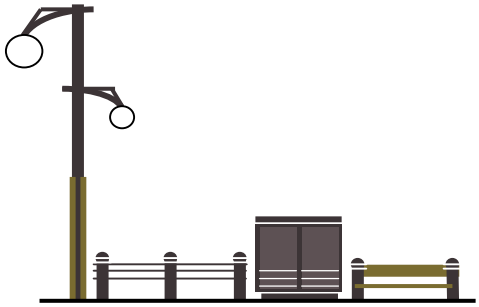
歴史的な街並みにおいては、漆喰や木・石材、和瓦などの素材が景観を創出している場合があります。適宜、これらの自然素材を使用するとともに、やむを得ず新しい建材を使う場合も、これらの伝統的な建材の質感に配慮した色彩とすることが大切です。

木材の自然色を活かして、落ち着きのある表情をつくる。

○ストリートファニチャーの色彩をそろえる

ストリートファニチャーを濃茶色（10YR2/1 程度）又は濃灰色（10YR3/0.2 程度）、濃緑色（10BG2/2 程度）などでそろえることにより、落ち着きある街並みとなります。

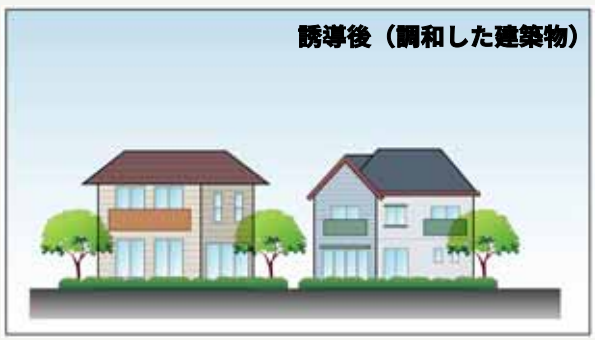
10YR2/1　10YR3/0.2　10BG2/2



濃茶色でそろえたストリートファニチャーの色彩

【ゾーンの色彩誘導イメージ】

全体的に、飽きのこない明るめの色彩とすることにより、街並みとしての調和を保つとともに、日常生活の場として、親しみと落ち着きのある色彩景観とします。



Ⅲ－５．工業流通景観ゾーン

（1）ゾーンの環境色彩

豊かな緑地帯の緑に囲まれた工業団地（平出工業団地）

道路に面した緑地帯の奥に見える研究施設（清原工業団地）

【調査ポイント】

・平出工業団地
・清原工業団地
・宇都宮インターパーク
・繊維卸団地
・河内工業団地

など

色とりどりの袖看板が掲出される建築物（繊維卸団地／石井町）

大型の屋上広告や広告板が掲出される大規模物販店（宇都宮インターパーク）

【ゾーンの主な環境構成要素】

・低層で長大な建築物
・建築物に付帯する広告物
・緑地帯の緑
・形状が複雑な工作物
・空に突き出す鉄塔

など

【ゾーンの環境色彩の特徴】

○寒色系の色彩が使われる長大な壁面の倉庫や施設

工場や倉庫、研究施設の建築物は長く、大きな壁面を有する場合が多く、外壁色が当景観ゾーンの色彩環境に大きな影響を与えることになります。これらの外壁色はこれまで N(灰)系、YR(黄赤)系が主流でしたが、最近は寒色系の PB(青紫)系や B(青)系といった工業流通景観特有の色が使われている例も多く見られます。

○道路沿いに設けられた緑地帯の豊かな緑

道路沿いに、低木と高木による緑豊かな緑地帯が設けられているところも多く、その場合、建築物や施設はそれらの緑の間から見える程度です。

○光と影により見え方が異なる形状が複雑な工作物

貯蔵タンクや煙突、作業機械等の工作物は複雑な形状をしている場合が多く、光と影によって色の見え方も違ってきます。また、これらの施設は汚れや色あせしやすいため、当初の色とは異なり、薄くなったり、黒ずんだりしているものも見られます。

○流通団地等における派手な色彩の壁面や大型広告物

商業系の流通団地等においては、運転手からも良く見えるよう、大型の広告物が掲出されたり、建築物の壁面自体が広告化されている例も多く見受けられます。これらは企業のコーポレートカラーを使った派手な色使いのものも多く、周辺景観に大きな影響を与えています。

（2）ゾーンの色彩景観のテーマ

【景観形成の方向性】

大きなスケールの工場や倉庫、物販施設が集積する地区において、閉鎖的にならず、明るく開放的なイメージの景観づくりが求められます。

【色彩景観のテーマ】

『一定の秩序の中に躍動感のある、明るくダイナミックな色彩景観』

工場地の整然さと躍動感を表現しながら、アクセント色を効果的に使った、明るくダイナミックな色彩景観を誘導します。

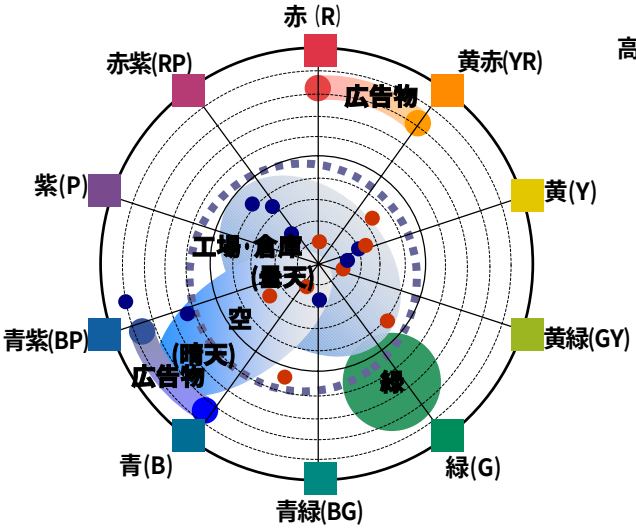
（3）ゾーンにおける色彩誘導の考え方

当ゾーンには、ボリューム感のある工場や倉庫の建築物や工作物をはじめ、建築物に付帯する広告物、工場敷地を取り巻く緑地帯の緑や広がる空の色彩との調和に配慮する必要があります。

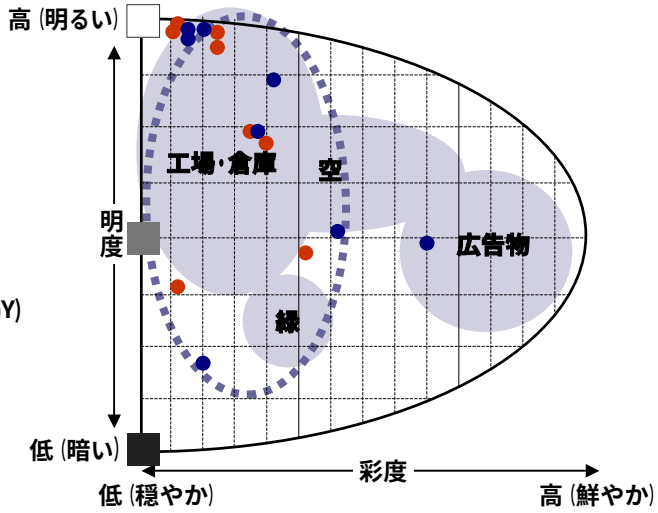
色彩誘導の方向性

（市民ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ旗揚げｱﾝｹｰﾄで）

- 評価の高かった色
- 評価の低かった色



［環境構成要素の色相と色彩誘導の方向性］



［環境構成要素の明度・彩度と色彩誘導の方向性］

○高明度で寒色系の色味を持たせることで、秩序と安心、清潔感のある色彩を基調とする

研究施設や倉庫といった建築物の長大な壁面、貯蔵タンク、煙突や作業機械等の工作物は、清潔感のある、高明度で BP(青紫)、B(青)、BG(青緑)等のやや寒色系の色味（彩度 1～３程度）を持たせた色調を基本とします。

また、これらの施設は汚れや色あせが起こりやすいため、適切な時期に塗り替えを行い、清潔さを維持することが求められます。

○基調色に調和する類似色相の強調色を効果的に使用する

工場・流通関連の大規模な建築物や工作物においては、基調色に調和した高彩度の強調色を効果的に使うことにより、単調な壁面に変化が生まれ、より親しみやすさが感じられるようになります。

○作業機械等の大規模工作物は汚れや色あせの目立ちにくい色彩とする

複雑な形状で凹凸の多い貯蔵タンクや作業機械等の大規模工作物は、中明度・低彩度でやや色味のある色彩とすることにより、汚れや色あせが目立たない工夫をすることも必要です。また、特定部位に強調色を効果的に用いることにより、圧迫感を軽減することができます。

建築物等における望ましい色彩の範囲

基調色(外壁)

[色彩例]

5P 9/1	10P 6/2
5PB 9/1	10PB 6/2
5B 9/1	10B 6/2
5BG 9/1	10BG 6/2
5G 9/1	10G 6/2
5Y 9/1	10Y 6/1

基調色（屋根）

[色彩例]

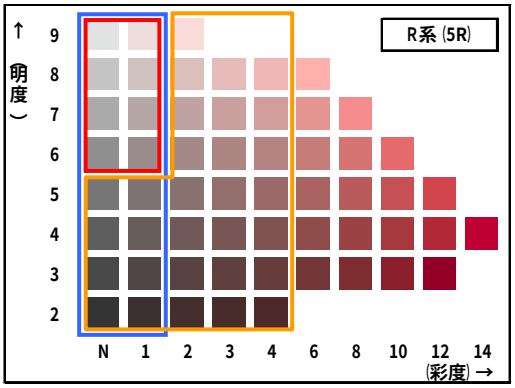
N4	5P 4/2
5BG 4/3	5B 4/3
5BG 4/2	5G 4/2

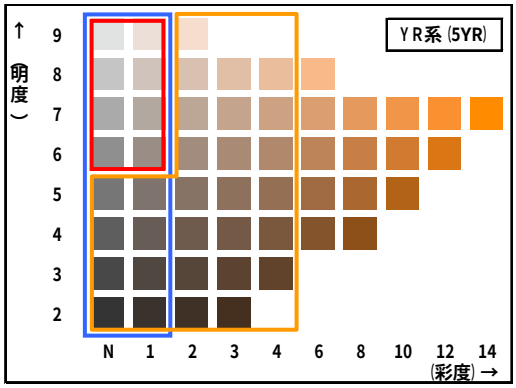
強調色（外壁）

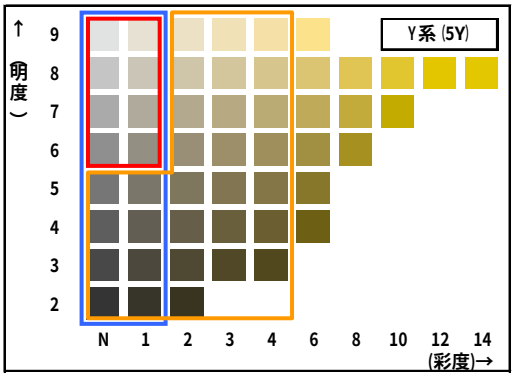
[色彩例]

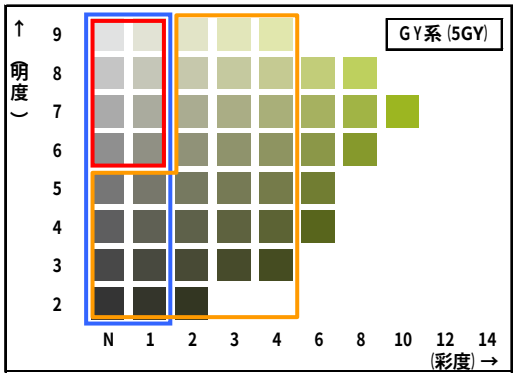
5RP 5/4	5P 5/4
5PB 5/4	5B 5/4
5BG 5/4	5G 5/4

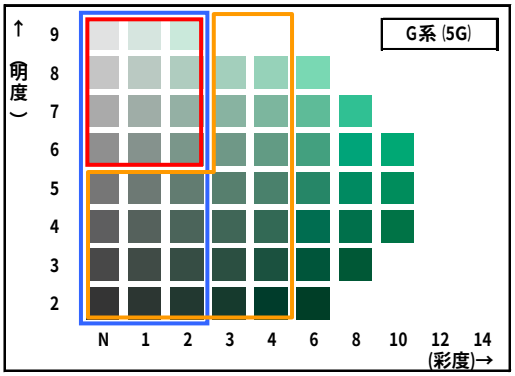
※色票は各色相の中央色（5R）のみを示していますが、例えばＲ系の色（0.1R～10R）は全て同様の範囲を推奨色とします。

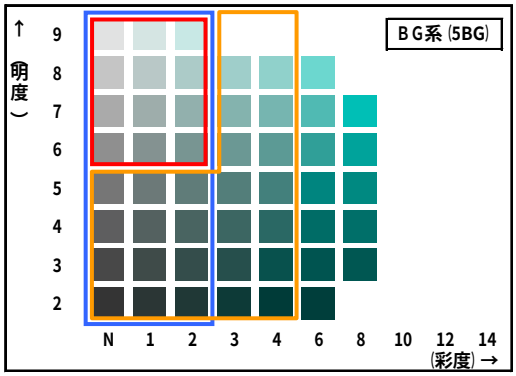


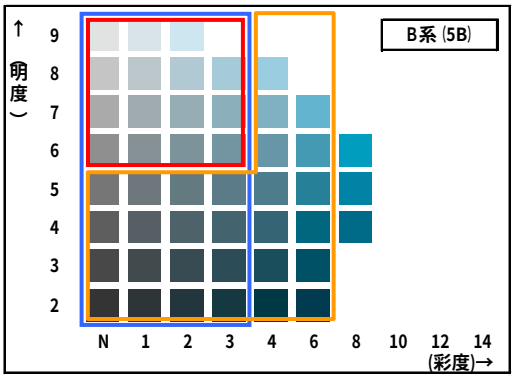


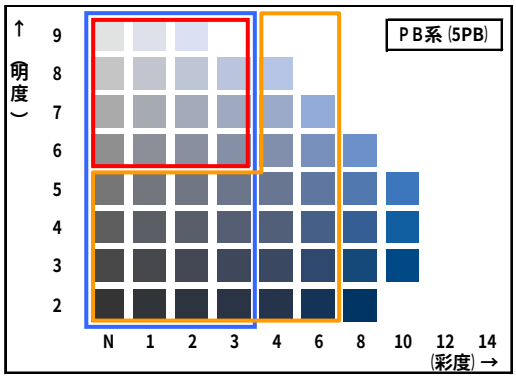


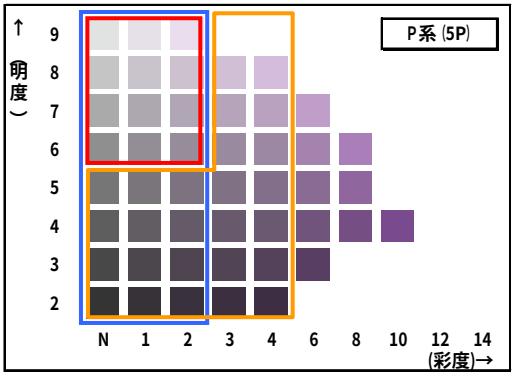


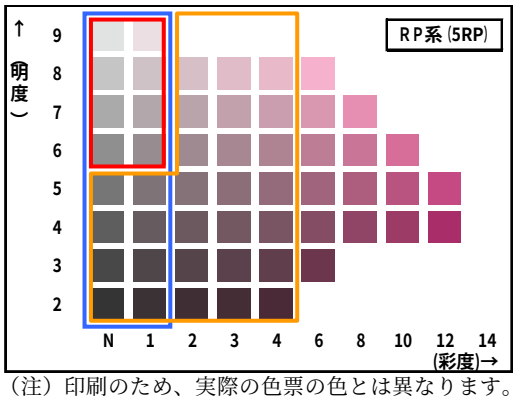










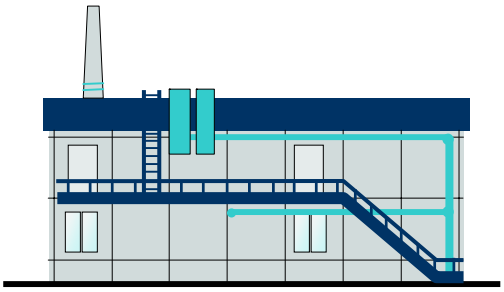


（注）印刷のため、実際の色票の色とは異なります。

（4）配色のヒント

○アクセント色で全体を引き締める

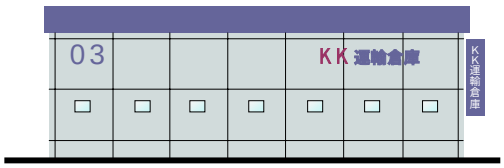
単調になりがちな工場や倉庫については、外壁色を低彩度・高明度色を基調に、強調色としてB(青)系の高彩度色を小さな面積で用いることにより、全体的に引き締まり、清潔感も生まれます。



配管や配線など、特定の部位にアクセント色を用いる。

○外壁色や屋根色と広告物の色調を合わせる

壁面広告や袖看板を設置する場合、外壁や屋根色と調和するよう、広告物の色相をあわせるようにします。



外壁のブルーグレーや屋根の青紫色を広告物の基調色とする。

○視界が開けている場合はミラーガラスを効果的に使う

研究施設の建築物ではミラーガラスを使用した建築物も多く見られますが、視界が開けた場所では、周辺の風景が映り込み、長大な施設の圧迫感を軽減することができます。

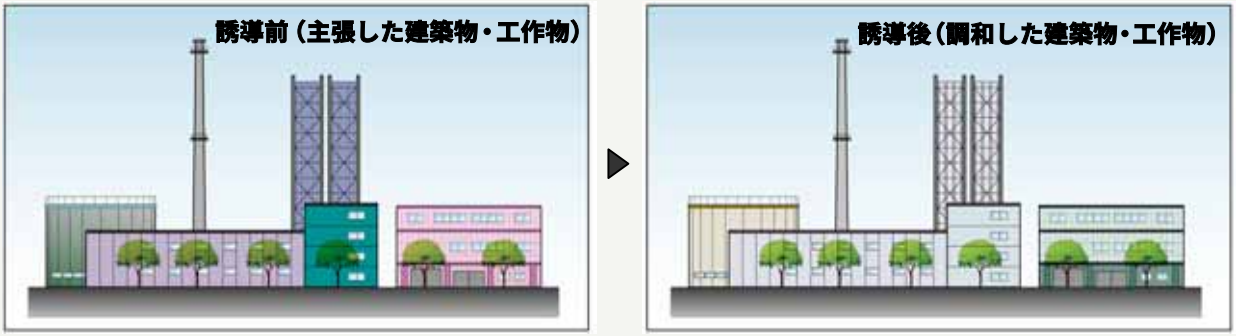
ガラス面に空や緑地帯の緑が映り込み、施設の圧迫感が軽減される。

○色彩のメンテナンスを適宜行う

特に汚れや色あせなどが起こりやすい工場施設等において、その機能や美観を維持するため、適切な時期に塗替えを行うなど、色彩のメンテナンスも重要です。

【ゾーンの色彩誘導イメージ】

汚れや色あせにも配慮しながら、清潔感のある寒色系（B・BP 系など）の高明度色を基調として、同系の強調色を効果的に用いることにより、整然とした中に躍動感が感じられる、明るくダイナミックな色彩景観とします。



Ⅲ－６．都心景観ゾーン

（１）ゾーンの環境色彩

原色を多用した大型広告物が壁面を覆いつくす雑居ビル（ＪＲ宇都宮駅前）

落ち着いた色彩の業務系の高層建築物（大通り）

【調査ポイント】

・ＪＲ宇都宮駅東・西口
・大通り
・中央通り
・オリオン通り、ユニオン通り
・バンバ通り
・本丸通り

など

パッチワークのような色とりどりの歩道舗装（大通り）

個性が競い合う様々な色合いの商業店舗（ユニオン通り）

【ゾーンの主な環境構成要素】

・駅前の大型看板
・自家用広告物
・中高層業務商業ビル
・低中層商業ビル
・カラー舗装
・街路樹
・商品、自動車、歩行者

など

【ゾーンの環境色彩の特徴】

○大通りに面した地区における落ち着いた色彩の中高層業務ビル

大通り沿いには、5～10 階程度の中高層ビルが多く建ち並んでいますが、これらの壁面は N(グレー)系や低彩度の YR(黄赤)系の色彩でほぼそろっており、整然としたイメージを受けます。

○商業地区における多様な色使いの建築物や広告物

オリオン通りやユニオン通り、中央通りなどの商業施設の建築物は、互いの個性を競い合うように様々な色使いの建築物や広告が見られます。また、店舗前には色とりどりの商品が見え、また色とりどりのファッションをした人が歩いており、にぎやかさを感じます。

○駅前に多く掲出される原色を多用した大型の貸看板

駅前の雑居ビルの屋上や壁面には、赤や黄色などの原色を多用した大型の貸看板（一般広告）が数多く掲出され、駅前のペデストリアンデッキから見ると騒然としたイメージを与えています。

○パッチワークのように見える歩道面のカラー舗装

業務・商業地区の歩道面では、インターロッキングや自然石を組み合わせた色とりどりのカラー舗装が施されており、連続性が感じられません。

○ボリュームある緑の街路樹

中央通りや釜川沿いなどは街路樹が大きく育っており、緑のトンネルのようになっている部分もあります。これらの街並みでは、緑の間から道路の反対側の建築物が見え隠れしています。

（2）ゾーンの色彩景観のテーマ

【景観形成の方向性】

市街地中心部や幹線道路沿道など業務・商業施設が集積した地区であり、多くの人が集まり活動する、活力と賑わいのある景観づくりが求められます。

【色彩景観のテーマ】

『一定の秩序の中に個性が感じられる、魅力と賑わいの色彩景観』

宇都宮市の顔として、格調高さや洗練さといった秩序の中に、それぞれの個性や魅力が光る、賑わいのある色彩景観を誘導します。

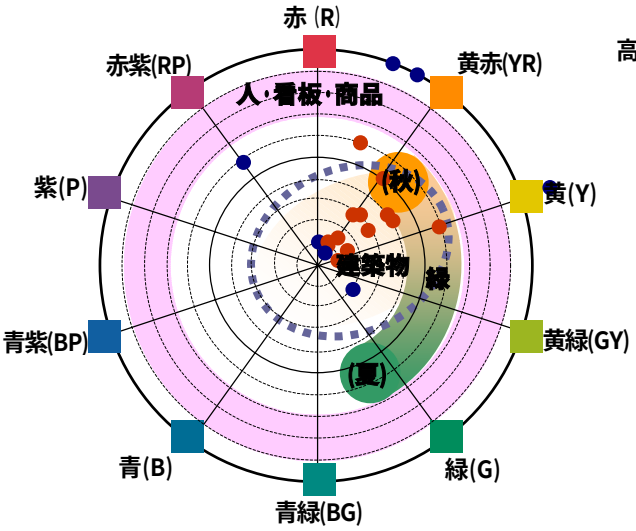
（3）ゾーンにおける色彩誘導の考え方

当ゾーンには、多くの人や看板、商品など様々な色があふれています。そのため、低層部ではこれらの色を引き立て、賑やかさを創出するとともに、中・高層部では中・遠景の見え方に配慮する必要があります。

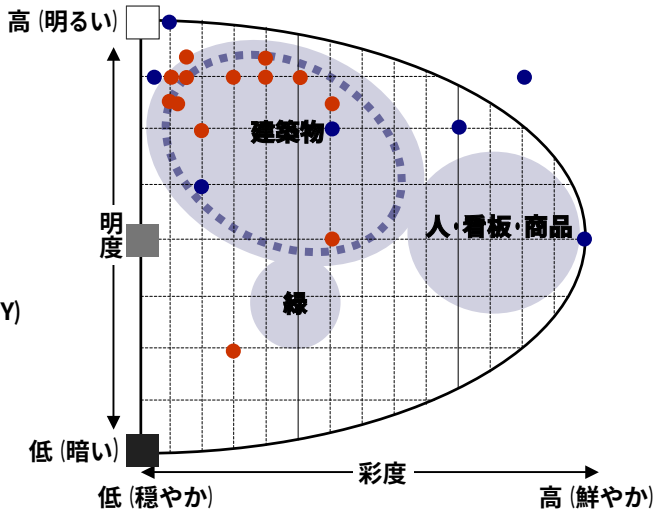
色彩誘導の方向性

（市民ﾜｰｸｼｮｯﾌﾟ旗揚げｱﾝｹｰﾄで）

- 評価の高かった色
- 評価の低かった色



[環境構成要素の色相と色彩誘導の方向性]



[環境構成要素の明度・彩度と色彩誘導の方向性]

○宇都宮市の顔としての洗練されたイメージを損なわないような明るい色彩を基調とする

都市的な洗練されたイメージを損なわないよう、特に中高層のビルにおいては、低層部以外は、高明度の暖色系や無彩色の色彩を使用し、圧迫感の軽減を図ります。

○個性や魅力が光るアクセント色を効果的に用いる

建築物の低層部や特定の部材等に強調色やアクセント色を小さな面積で効果的に用いることで、各店舗や建築物の個性や魅力を表現します。このとき、色相についてはあまり限定することなく、基調色や街路樹の緑とのバランスで効果的な配色を行うものとします。

○都市の顔としての風格を保つため、複数の色を使いすぎないようにする

まちには多くの色が氾濫しています。そのような中で、景観の「地」となる建築物や広告物においては、あまり複数の色を使うのではなく、できる限りシンプルで洗練された配色によって都市の風格を保ちます。

建築物等における望ましい色彩の範囲

基調色（屋根）

［色彩例］

5R 4/2	5YR 4/3
5Y 4/3	5BG 4/2
5B 4/1	5P 4/1

基調色(外壁)

［色彩例］

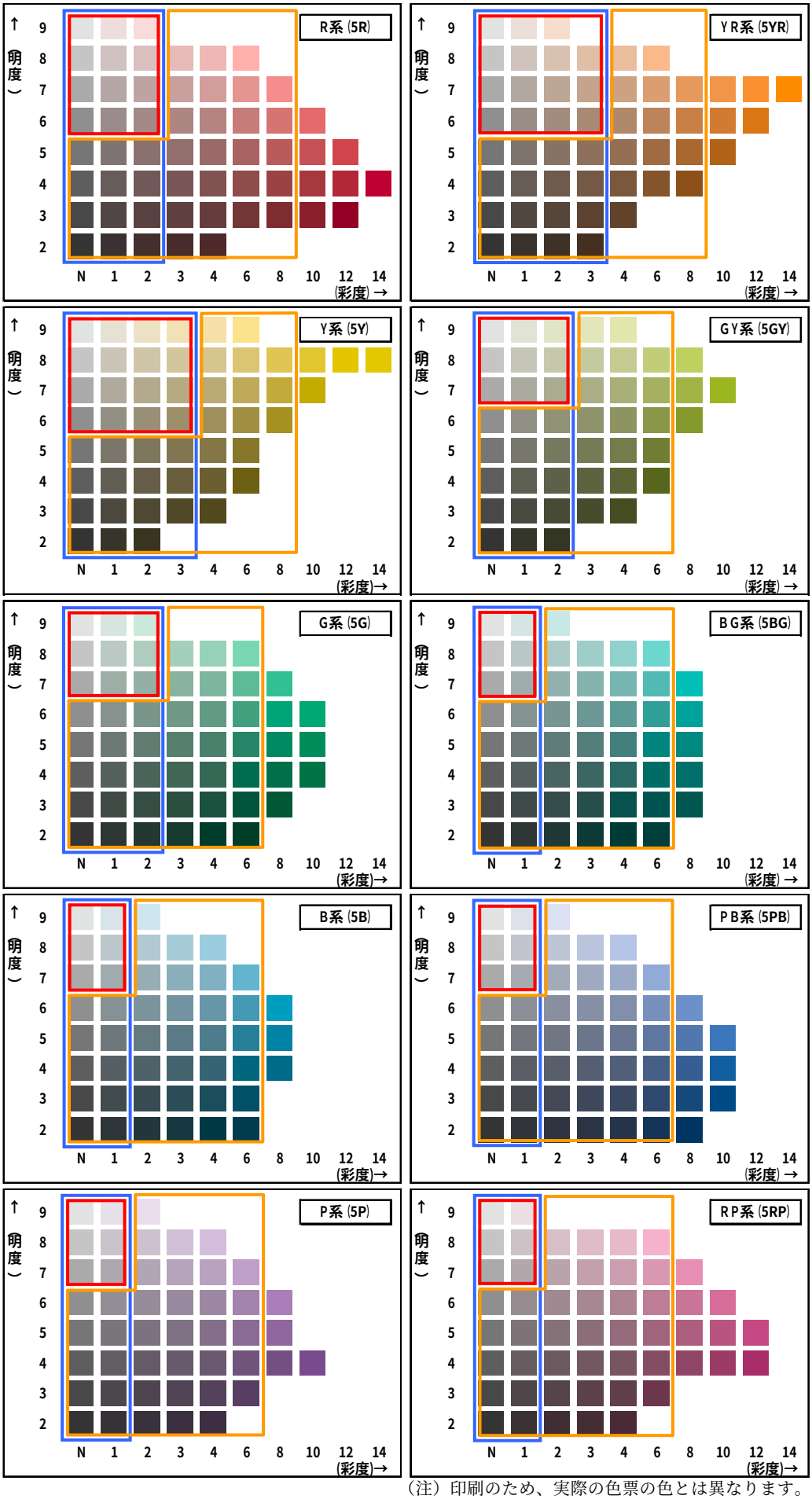
5YR 9/1	7.5R 7/2
5YR 8/2	7.5YR 7/2
5Y 9/1	7.5Y 6/3
5Y 8/2	7.5Y 7/2
5G 9/1	7.5Y 6/3
N8	N7

強調色（外壁）

［色彩例］

5R 5/8	5YR 6/8
5Y 8/8	5G 5/6
5B 5/6	5RP 5/6

※色票は各色相の中央色（5R）のみを示していますが、例えばＲ系の色（0.1R～10R）は全て同様の範囲を推奨色とします。



（注）印刷のため、実際の色票の色とは異なります。

（4）配色のヒント

○中・高層の建築物の場合、高層階の明度を高くする

上層階と低層階の色彩や素材を変えることで、街並みに変化を与えることができます。このとき、低層階を低明度、高層部を高明度にすると、中景で見た場合、建築物が重く感じることなく、全体の調和がとりやすくなります。

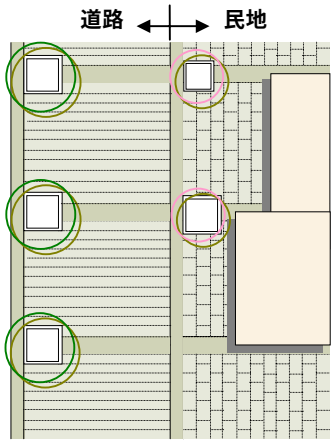
低層部と中・高層部の色を使い分けることで、圧迫感が軽減される。

5Y9/1.5（磁器質タイル）

N7.5（御影石板）

○建築物のセットバック部分は歩道と色相をそろえる

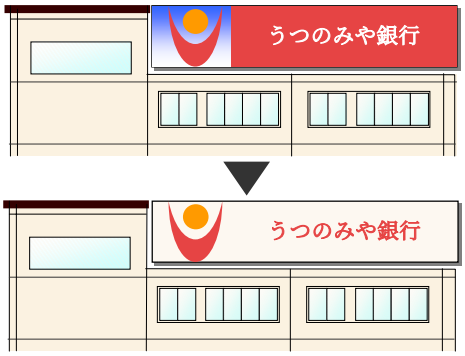
建築物が道路境界からセットバックして歩道状空地を設ける場合は、色相や色調を揃え歩道部分との一体感を保ちながら、必要に応じて舗装材の張り方や色の配分を変えることで、視覚的な違いを表現することができます。



セットバック部を歩道と同じ色合いで舗装し、空間の一体感を創出する。

○広告物の色数を抑える

当ゾーンのように多くの色があふれている場所では、多色使いの広告物はかえって注視性が低くなってしまいます。色数を２～３色程度に抑え、建築物との一体的なセンスのある広告物の掲出が望まれます。



板面色を建築物の外壁色にそろえ、表示の色数をおさえ、すっきりさせる。

【ゾーンの色彩誘導イメージ】

低層階（１～２階）と中・高層階の色を使い分けることで、歩行者の視線では個性と賑やかさを創出しながら、中・遠景としては宇都宮の顔としての風格を保ちます。